

沿革

2010年 カンボジアの村の子ども達に教育支援を行うために任意団体「すろまい・こ〜ん」を発足。

※カンボジア語で「すろまい」は「夢」、「こ〜ん」は「子ども」

2011年 シェムリアップ孤児院センターにて、知的に障がいのある「ビスナーン」との出会いから、障がい児支援を開始。

2012年 3月から「カンボジアの村に小学校建設プロジェクト」を開始。通学時の交通事故撲滅を目的として、コムルー村に小学校の分校を建設することになる。9月にシェムリアップ州ブオーク地区コムルー村に「私たちのスロラニュー小学校」が完成。

※ボランティア参加総数 279名 / ボランティア参加延べ人数 734名

2013年 NPO法人を取得して「NPO法人スロラニュープロジェクト」となる。7月コムルー村の村民を対象とした日本人救急救命士による救急救命講習を実施。

2014年 2月、日本人歯科医師による歯科健診及びブラッシング指導を開始。

2017年 2月、交野ロータリークラブ様のご支援により、スロラニュー小学校に図書館を建設。10月、三木みどりロータリークラブ様のご協力により、当法人に関係するシェムリアップ州福祉局長、孤児院センターセンター長、ワットポー小学校校長を含めた6名のカンボジア人が来日し、障がい児者支援事業所、特別支援学校等を視察。

2018年 7月、約6000人の子ども達が通うカンボジア王国で最大規模のワットポー小学校にて校長の要望を受け、支援の必要な子ども達に対して特別支援教育を開始。

2022年 10月から近藤正樹氏がカンボジア現地スタッフとして参加。

カンボジア現地スタッフ

近藤 正樹 (こんどう まさき)

【好きなアニメ】 鬼滅の刃・宇宙戦艦ヤマト

53歳まで海外渡航経験なし！

長年、日本の障害者就労支援に携わった専門性を活かしつつ、温和で誠実な性格から、誰からも愛されるスロラニュー現地スタッフ。

SAO PICH (サオ・ピッチ)

【愛称】 ピッチさん

【苦手なもの】 コーヒー※飲むと失神すること
現在も日本語ガイドとして活躍。プライベートでは、村の子ども達に無償で日本語を教えている心優しいカンボジア人。

NPO 法人スロラニュープロジェクトは、

カンボジア王国シェムリアップ州を拠点に当法人メンバーが日本で培った専門性を活かし、障がい児支援、救急救命講習、歯科支援、井戸建設活動に取り組んでいます。社会保障が不十分なカンボジアでかけがえのない子ども達の「命」に寄り添い、「豊かに生きる」を支援する。

障がい児支援

生活・相談支援 / 訪問診療
障害児デイサービス (隔月)



カンボジアの医師ライセンスをもつ、喜多野医師と協力して医療支援に取り組んでいます。

スロラニュー小学校

小学校建設及び修繕等の継続支援 / 新入生への制服等寄贈
運動会 (毎年1回) / 特別授業 (毎年2回) ※幼児教育・歯科支援・絵画等



シェムリアップ孤児院センター

生活支援 / 救急救命講習 / 歯科支援 / 障害児支援スタッフの費用支援



ワットポー小学校

必要物品等寄贈 / 「障害理解」の啓発活動
障害児の関わり方へのアドバイス



シェムリアップ師範学校

「障害理解」の啓発活動
救急救命講習・歯科支援



井戸建設支援

オートチュン村
バンゴア村 ほか



カンボジアでも地域で障がいのある子どもを育てることには多くの課題があります。

重度に障がいのあるデザインを育てるいつも笑顔で頑張り屋さんのお母様。生きていくために自宅でお店を開くことにしましたが、デザインを見たお客から「ここでは買いたくない」と言われたそうです。



ご寄付の使い途の一例をご紹介します

現在、日本人スタッフ及びスロラニュープロジェクトメンバーの渡航費や滞在費に関して寄付金を一切使用していません。

1か月の支援活動費用 ……

- ①シェムリアップ孤児院センター
障がい児支援スタッフ費用 165ドル
+食料支援 (お米) 100ドル 計 265ドル
- ②村に住む障がいのある子どもの生活支援費用
(豆乳+ガソリン代 50ドル+紙おむつ 75ドル) 計 125ドル
- ③村に住む障害のある子どもの医療支援費用
(病院・診療所への交通費) 50ドル



スロラニュープロジェクト現地支援活動経費 (年2回) ……

- ①スロラニュー小学校新入園児支援 (年1回)
制服代+文房具代 計約 200ドル
- ②障がい児デイサービス (年2回)
利用家族交通費 400ドル+昼食代 200ドル
(年2回分) 計 600ドル
- ③シェムリアップ孤児院センター (年2回)
食料支援 (肉・野菜※年2回分) 計 600ドル

